論 文 審 査 の 結 果 の 要 旨

報告番号	博(医歯薬)甲第 921 号	氏名	品川　兼一

学 位 審 査 委 員	主　査　　朝比奈　泉 副　査　　筑波　隆幸 副　査　　池田　通

論文審査の結果の要旨

1．研究目的の評価

本研究は，口腔扁平上皮癌患者において IL-6 と STAT3 に着目し，癌と炎症の関連性および臨床的役割について検討している。口腔以外の他部位の癌ではあるが IL-6 や STAT3 をターゲットとした治験が進められており，頭頚部領域でも治療のターゲットとして注目されている。口腔扁平上皮癌の IL-6 や STAT3 の発現による臨床病理学的影響や患者の予後，および治療薬としての可能性を検討したものであり，研究目的として十分に妥当である。

2．研究手法に関する評価

口腔扁平上皮癌患者の検体を用いて免疫組織化学的染色を行い，IL-6 および STAT3 の発現の有無を陽性細胞率と反応強度を用いて評価した。他の病理組織の評価や臨床病態を比較し，再発までの期間および生存率に関して検討したものである。IL-6 の発現は，浸潤パターン，脈管侵襲，病理組織学的リンパ節転移に関与していた。一方，STAT3 の発現と臨床病理学的因子との関連性は認めず，IL-6 と STAT3 関連も認めなかった。予後に関しては IL-6 発現により無病生存率の低下を認めた。口腔扁平上皮癌患者の病態と病理組織学的検討を総合的に評価しており，研究手法は妥当であった。

3．解析・考察の評価

本研究により IL-6 の発現は浸潤パターン，脈管侵襲，病理組織学的リンパ節転移に関与していることが示され，口腔扁平上皮癌において浸潤，脈管新生および転移に関与している可能性が指摘された。一方で，STAT3 の発現と臨床病理学的因子との関連性は認めないことから，口腔扁平上皮癌における IL-6 の役割は JAK/STAT3 の活性化より，PI3K/AKT 経路の活性化および VEGF-C に関与していると考えられ，今後のさらなる研究が期待される。

以上のように本論文は追加検討すべき課題もあるが，今後の口腔扁平上皮癌における患者の予後予測や新たな治療法の確立に貢献できると期待され，審査委員は全員一致で博士（歯学）の学位に値すると判断した。